

令和5年度小平市立小平第七小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関するなどを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸侧面等に関するなどを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

- ・全体の平均正答率は 63%、平均正答数は 8.8 問で、昨年度と比べると、やや上昇している。
- ・「知識・技能」を問う問題の正答率が 65.9%で、「思考・判断・表現」を問う問題の正答率 59.4%を上回っている。

- ・図表やグラフなどを用いて自分の考えを書き表すことや、文章や話の内容に応じて自分の考えをまとめることに課題がある。
- ・「日常よく使われる敬語を理解しているか」という問題で、無解答率が最も高かった。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・書くことへの抵抗感を減らすように、キーワードをつなげてまとめる練習や、友達の文章を見合う活動を多く取り入れる。また、文章構成や大事なキーワードを中心に繰り返したり、要点を整理したりすることで、書く力を少しずつ向上させていく。
- ・東京ベーシックドリルやタブレットドリルを活用し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。

【算数】

状況の分析

課題

- ・全体の平均正答率は 58%、平均正答数は 9.3 問で、昨年度とほぼ変わらない。
- ・「知識・技能」を問う問題の正答率が 64.3%で、「思考・判断・表現」を問う問題の正答率 50.1%を上回っている。

- ・グラフを複合的に捉えて考察したり、図形の定義を理解したりすることに課題がある。
- ・「A 数と計算」の結果が、全国や東京都と比べて最も低い数値であったが、特に筆算の仕組みについての理解に大きな課題がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・各領域の授業のはじめに前時や前学年までの内容を振り返る時間を設定し、反復して計算の仕方や図形の定義をおさえられるようにする。
- ・東京ベーシック・ドリルなどで、既習事項を繰り返し練習し、基礎基本の習得を図る。
- ・計算問題を習熟させるだけでなく、なぜそのような計算になるのかを考えさせる。また、図や半具体物を使って説明させ、筆算のどの部分と対応するのかを理解させる。

【質問紙】

状況の分析

課題

- ・「いじめはどんな理由があってもいけない」「友達関係に満足している」という項目の肯定的回答の値が全国や東京都と比べて高く、友達と良好な関係を築くことができている児童が多い。
- ・総合的な学習の時間で、調べたり発表したりする学習がしっかりと身に付いている。
- ・算数や英語の学習は好きと答えた児童が多い。

- ・「朝食を毎日食べているか」「新聞を読んでいるか」「地域の行事に参加しているか」といった項目の肯定的回答の値が、全国や都と比べて大きく下がっている。
- ・読書は好きと答える児童が 60.5%と少ない。
- ・学習したことについて、自分の考えをまとめ、次の学習につなげていく力に課題がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・朝食をしっかりととることが、自分の健康や毎日の学習にとって大切だということについて、養護教諭や栄養士と連携し、食育の取り組みを進めていく。学校からの配布物で家庭にも啓発していく。
- ・CS や青少対と連携して地域行事への参加を促し、地域を大切に思う心を養っていく。
- ・読書を推進するために、学校司書や図書ボランティアとも連携し、読書環境の充実を図っていく。
- ・授業の終わりや単元末などにしっかりと学習の振り返りをさせ、学習したことについての自分の考えをまとめ、次の学習につなげる習慣を身に付けさせていく。